

カンボジアチーム 9/24-9/28

■ ダニエル森清牧師(東京アンテオケ教会牧師)

皆様のとりなしのお祈りを感謝いたします。今回、カンボジアチームに初めて参加させていただきました。久々の海外、常夏の国ということで、色々な不安はありましたが、すべて心配だったことについて、完全な守りを見ることができました。

まず、カンボジアは雨季に入っていて海水浴やバーベキューの時、天候が守られるように祈っていました。1日目は雨が降っていましたが、集会中涼しさを感じるほどの心地よい気温となりました。海で泳ぐ時間は晴れて、帰りは雨が降り、虹がかかる瞬間もありました。バーベキューの時間も降りそうで降らず、心地よい風だけがありました。天候の面で完全な守りを見ることが出来ました。

チーム派遣中、1日目の夜の聖会と2日目の夜の聖会、計2回の聖会が行われました。共に賛美し、聖餐に預かり、チーム側とカンボジア側それぞれの賛美グループがゴスペルを歌いました。各メッセンジャーを通してみ言葉が語られました。

孤児院の卒業生である2人も聖会にかけつけてくれました。カンボジアは東京アンテオケ教会のオンライン教会であり、教会の守りと建て上げがなされており、子供たちもその中で成長させられているのを感じることが出来ました。特に子供たちが作った曲を生で聴くことが出来、感激しました。

さて、2日目はAEONの中にあるアイススケートとポーリングに子供たち、スタッフとチームで出かけました。午後からはバーベキューでした。子供たちと楽しい時間を共有する事が出来ました。

そのバーベキューの時間、私は1人、涙をこらえていました。何故かという子供たちに対する神様の愛の大きさを強く感じたからです。このように神様の愛が形になっているのを私は今まで見た事はありません。まさに神様の愛の結晶がここにあると感じました。

最後に個人的なことですが、今年に入って私は1つのみ言葉が語られていました。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」¹ エペソ人への手紙 5章14節

私はカンボジアの子供たちとお別れする時「また来たいなー」と心から強く思えました。

久々の海外派遣。海外派遣チームに参加出来るよう、長く祈り続けていましたが、いつしか私は言葉だけの祈りになっており、本当に願っていませんでした。祈りながらあきらめていました。

私は心の底から祈る、という意味で死者のようになっていたのです。また海外宣教に行きたい！という強い願いを蘇らせてくださった神様を心からほめたたえます！

■ 千多絹恵(東京アンテオケ教会)

主の御名を褒めたたえます。9/24~28まで聖所から流れ出る水ミッションから遣わされてカンボジアチームに20名が参加しました。私にとっては初めての海外派遣でした。この派遣チームはカンボジアにある礎の石孤児院を訪問して子どもたちの霊的成長や実際的な成長を見ることが出来る派遣でもあり、また、神様の働きを体験できる派遣チームです。今回派遣に導いてくださった神様に感謝します。

今年に入ってから御心の海外宣教派遣に行けますようにお祈りしました。祈りは恵みです。神さまの導きを聞く中で、示しと語りかけを与えてくださり導いてくださいました。また、初めての派遣とあって、恐れや不安がありました。主日礼拝のメッセージでヨシュア記から恐れてはならないと語られました。神さまが今回の派遣にどのような計画を持って導かれるのか期待して参加しました。神さまが何をを見せてくださり何を語ってくださるのか、神さまの御心をとらえることができるように祈り備えました。

まず、カンボジア孤児院に行って出会うのが子どもたちの笑顔です。隔たりの無い明るい笑顔に癒されました。向こうから近づいてあいさつをしてくれます。礼儀正しく表情が豊かで神さまに愛されていることがわかります。また、孤児院は少し狭く感じましたが庭は整備されて綺麗でした。床もモップがかけられていてピカピカです。派遣チームが来るからではなく日頃から整備されているとわかります。子どもたちの動きを見てもわかります。

また、集会では、子どもたちの主に向かって捧げる賛美が素晴らしかったです。主の臨在が豊かに注がれ涙が出ました。礼拝の恵みがあふれていました。また、共に聖餐の恵みに預かる時、み体がひとつであることを語ってくださいました。喜びでいっぱいになりました。メッセージも真剣に食い入るように聞いていました。東京アンテオケ教会のオンライン教会としての歩みの中で子どもたちの信仰の成長を見させていただきました。

特別賛美では風のひびき 6 集に掲載された「プレヤソクルワ」を生で聞かせていただきました。この賛美が誕生したのは、前回のカンボジアチームで作詞作曲のセミナーをしなさいと語られ信仰の歩みをスタートしたからです。子どもたちに課題が与えられ「一歩踏み出したこと。小さくても踏み出す時、神さまが働いてくださった」と R さんが証されていました。教会を土台とした主の主任牧会の働きは素晴らしいです。

今回も作詞作曲や映像やギターのセミナーがもたれました。子どもたちの真剣に取り組んでいる姿を見せていただきました。今回の作詞作曲のセミナーでは、「イエスさまを知らない人に賛美で伝えたいと思いませんか。みんなの喜びだけで終わってはいけない、たくさんの人に喜びを流す働きをしましょう」と語られていました。次の段階に入ったことを感じました。新しい一般向けの賛美が生まれることを神さまに期待していきたいと思います。

また、海水浴からの帰りに虹が出ました。バスの中ではカラオケ大会が行われていて「白馬」を賛美し終わった瞬間でした。虹は神さまの約束を表します。海外宣教の働きと共に孤児院の働きも、ひとつの働きと語られています。神さまの計画を見ていきたいと思います。賛美隊の働きも、開かれないと思っていた場所が今回開かれました。従う時、神さまが働かれ栄光を表してくださることを見せてくださいました。

また、個人的にもみ言葉から語りかけを受けました。今後どのように祈るべきか、祈りの課題も具体的に見せてくださいました。今回の派遣で、海外宣教の働きは「祈り、出ていく、献げる、インターネット」が基本であることをあらためて教えられました。派遣チームを導いてくださった神さまに感謝を捧げます。